

## 令和4年度第2回鶴岡市中央公民館運営審議会記録（概要）

日時：令和5年3月14日（火） 午後2時から3時45分

場所：鶴岡市中央公民館第1会議室

出席者

委員：（委員11名）

中村ちか子委員、梅津芳春委員、池田達枝委員、門松秀樹委員、門脇里香委員  
榊原賢一委員、高山千代子委員、丸山壽身委員、難波正喜委員、渡部巖委員  
阿部麻知子委員、

（欠席委員1名）富樫みわ子委員

事務局：説明員（6名）

鶴岡市中央公民館長、主査（2名）、公民館専門員（3名）

1. 開会：事務局
2. あいさつ：鶴岡市中央公民館長
3. 委員、職員紹介：事務局
4. 報告・協議：事務局で報告後、委員より質疑、ご意見を伺った。

議長は、同規則第3条の5に基づき、委員長が行った。

- （1）令和4年度施設運営及び事業実績について
- （2）令和5年度施設運営及び事業実施計画について
- （3）今後の施設運営及び事業計画等について

### 【質疑・意見・協議等】

委員：数多くの講座をされていて感心している。差し支えない範囲で、講師の謝礼について伺いたい。

事務局：中央公民館での講師謝金は、講座1回につき、一律9,000円となっている。

ただし、特別講座については、明治安田生命の事業及び市の職員が講師になる場合は、講師謝金が発生せず、参加費も無料としている。

委員：中央公民館は、市の中心部にあり、利便性がよく地域住民にとっても非常に利用しやすい施設だと思います。

貸館の申し込みについて、現在10日前となっている使用の申込期限を、デジタル化を考慮しつつ、スピード感を持って前進した取り組みを期待しております。

次に、直接中央公民館の事業ではないですが、サークル活動をしていますと、生涯学習活動の一環として、コミュニティ推進課で行っている、YouTubeを利用したオンライン発表会はいい企画で、私もサークルも昨年参加しています。ただし、申込期間が10月から12月までで、YouTubeに流すのは3月末までというのは、非常に期間が短い。もっと、長期間YouTubeで流していただけるよう、コミュニテ

イ推進課と連携を取っていただきたい。

また、先日「邦楽の集い」を開催したが、来場者が200人ぐらいと非常に少なかったのですが、城下町鶴岡の邦楽文化を途絶えさせないよう、今後も方向性を検討しながら実施していきたいと思います。他の団体はステージに土足で上がり、演劇講演では釘を打ったりするが、私達は着物で足袋でステージに上がるので、所作台が必要だというのは邦楽の団体では当たり前です。先程あいさつの中でふれていただきましたが、予算の関係もあるわけですが、できないという前提ではなく、どうしたらできるのかと前向きに考えて欲しいということを重ねて申し上げたい。

事務局：貸館の申込期限については、条例で定められておりますが、普段ご利用いただいているサークルであれば10日以内でもご利用いただける場合がありますので、一度お問い合わせをいただければと思います。公共施設も、いずれはオンライン予約が主流になると思いますので、当館でもデジタル化に向け検討していきたいと考えております。

オンライン発表会について、山琴箏会さんから、昨年も今年もとてもすてきな作品を応募していただきありがとうございます。今回のご要望につきましては、担当のコミュニティ推進課にお伝えいたしますが、実情としましては、応募件数があまり増えていないようですので、皆様からもご協力いただきたいと思います。

所作台については、保管場所から運んでくるのにかなりの費用がかかることは承知しております。できることがないか、引き続き検討していきたいと思います。

委員：コロナ禍でありながら、これだけの事業をされていてすごいと感じました。女性センターの40周年記念講演会は、私も参加させていただきましたが、坂東先生のエネルギーで活気に満ちた素晴らしい講演会でした。

女性センターの開館当初は、働く婦人の家からスタートし、20年後位に女性センターと名称を変え現在に至るわけですが、時代背景も大きく変わり、女性活躍や男女共同参画といわれる中、今後の方向性、運営についてどのようにお考えか伺いたいと思います。

もう1つは、プラネタリウムについてですが、私も熟睡プラ寝を見させていただきましたが、さらにゆっくり観覧できるよう、貴重な施設、人気の施設でもありますので、椅子の更新を要望したいと思います。

事務局：委員のおっしゃる通り、働く婦人の家からスタートして現在に至るまでの間に時代背景が大きく変わり、ジェンダーレス、アンコンシャスバイアスといった考え方も加わったことから、女性センターへの期待が高まっていると感じております。また、女性センターという名称では、男性が入りにくいとの声もありますので、今後の施設運営について、委員の皆様のご意見を伺いたいと考えております。

事務局：本市総合計画では、輝く女性活躍推進プロジェクトとして組織横断的に推進しておりますが、残念ながら男女共同参画のための拠点施設がないことから、女性センターの名称を変更してはどうかという案も出されております。ただ、中味が変わらないのに看板だけ書き換えるというのはいかがなものか、また、補助を受けて建設した経過もありますので、長期的な方針を検討していく中で名称についても検討し

ていきたいと考えております。なお、本市の公共施設には古いものが多く、特に教育施設は老朽化が進んでいる施設が多数ございます。市の方針として施設数や面積を減らす、建て替えの際は他施設との併設を検討するという方向性が示されているようです。

事務局：プラネタリウムの椅子について、更新を望む声があることは承知しております。施設全体の老朽化に伴い、プラネタリウムについても改修が必要な箇所として、自作番組を投映する際に操作する電気機械系統について保守業者から助言をいただいております。様子を見ながら天文移動教室を実施しておりますが、修繕箇所の優先順位の関係から予算要求できておりません。今後、保守点検の報告、お客様の声を踏まえた上で、引き続き検討していきたいと思っております。

委員：先般、NHK で、宇宙の中で地球と同じ惑星が 50 個近くあるという報道番組を見ました。子どもたちにとって、夢のある情報を取り入れて実施していただきたい。

委員：各種講座を実施してすごいと思うが、高齢者対象のものが多いと感じる。地域はコミセン化されたと言っても生涯学習事業は残っている。自分の地域の事はわかるが、中央公民館や他の地域のことはわからないことも多い。何か地域との連携や、情報交換のような研修会はあるか伺いたい。

事務局：鶴岡市は合併して区域も広いため、鶴岡地域については、教育委員会の中で社会教育と中央公民館で分担し、各地域については、それぞれの地域庁舎の総務企画課が担当している。鶴岡市全体に関わることは、社会教育課が担当しており、この会議を大きくしたような社会教育委員会会議というものがあり、そこには社会教育課、中央公民館以外に、コミュニティ推進課、図書館、スポーツ課、地域庁舎の総務企画課も出席し、意見交換を行う場はございます。ただし、市全域が対象であるため資料や報告事項が大量になり、内容的に深くまで掘り下げることは難しいのが実状です。

また、コミュニティ推進課で作成している事業の記録冊子には、講座の内容、講師の情報等が掲載されておりますので、それを参考にして、講師や講座についてお互いに情報交換をしておりますが、櫛引と温海は掲載されていない。さらに、各地域に生涯学習推進員が配置されておりますが、その推進員の研修会に私達職員も参加し、一緒に勉強させていただいております。

委員：櫛引と温海についても掲載されると事業の参考になると思います。中央公民館のように大きな公共施設が主要道路から奥まった場所にあるのは少ないのではないかと思います。場所が分かりづらいので、看板や標識の設置等に配慮していただきたいと思っております。

委員：櫛引と温海は、広域コミュニティがないからだと思っております。

委員：先ほど今年度事業報告の中で、16 ミリ映写機操作の技術継承というお話がありましたが、16 ミリフィルムだけでなく、VHS や DVD の教材もあると思う。再生する機材もいずれは故障やメンテナンスができない状態になると思われれます。故障や破損した場合は復旧することができないと思うが、映像の保存やメンテナンスあるいは更新について、どのように考えているか伺いたい。

委員：私も趣味で 8 ミリの古い映像を持っているため、インターネットで調べたところ、専門業者が CD 等へ変換してくれるサービスはあるが、1 センチ単位でいくらのよう

に結構費用がかかるものです。

事務局：委員がおっしゃる通り、今後の保存を考え他のメディアに変換できればいいのですが、費用がかなりかさむため対応できておりません。庄内には庄内視聴覚連絡会という組織があり、貸出事業についても連携しておりますが、そちらの会議でも議題になっておりましたので、メディアに変換するサービスがあることは承知しております。どこの市町でも課題としてとらえておりますが、予算の関係から、破損した教材については、貸出リストから外しているのが実情です。貴重な教材もありますので、長期的な保存方法について検討していきたいと考えております。

委員：経費がかかる問題でもありますので、1年間1本ずつでも計画的に継続して進めていただいた方がよろしいと思います。

委員：少ない予算と職員の中で大変数多くの事業を実施されているが、対象者を見ると、高齢者向けのものが多く、中には親子向けの講座もあるが、その中間の年齢層、勤労者向けのものが少ない。みんな年を取っていくわけですから、人口減少も進む中、若い人たちが興味あるものはどういうものなのか、逆に行政として知ってほしいということもあると思います。そういう課題を考えると、やはり土日や平日夜間の講座設定が必要でないかと思います。

二つ目ですが、直接の事業には限界があると思いますが、先ほどの説明で非常に多くのサークルが活動している。いろいろな事業をサークルの中で趣味を通じて知り合った方が見に来た、あるいは関連して友達を誘って見に来たなどが圧倒的に多いのではないかと思います。従って、サークルの自主性を尊重しつつ、どう育てていくかが社会教育の中で大事なことだと思いますので、対応していただくようお願いしたい。

事務局：昨年度もいろいろ夜の講座を企画しましたが、コロナ禍の中で現役世代の方が仕事以外の事に参加しにくい雰囲気があり、募集しても人数が集まらずやむを得ず中止にした講座もありました。ここ数年の行動制限が緩和される傾向がありますので、また夜間の講座についても計画していきたいと思います。

サークルについては見学希望のお問合せをいただいておりますので、その都度サークルに繋げておりますし、来年度もサークル共催講座を実施しますので、今後も支援に努めて参ります。

委員：いろいろなものが高騰する中、施設使用料の値上げがあるのか気になりますが、いかがでしょうか。

事務局：現在のところ値上げの予定はありません。ご承知の通り原油価格が高騰しており光熱費がかなり嵩んでおりますが、この状況がいつまで続くのか見通しが立っていない状況です。市全体として施設使用料を見直す方針が示されましたら、それに合わせて検討することになると思います。

委員：学校現場にいますと、子どもの数が減って少子化を目の当りにしています。中央公民館も10年後、20年後どういう形になるのか考えていく必要があると思います。対象者という話もありましたが、子どもを含めた世代交流であったり、SDGsの17のゴールについて、アイコンをチラシに活用し、目的をもって参加するよう働きか

けることもできるかなと思います。また、鶴岡は、食文化創造都市の認定を受けているため、それをもっと広げていくこと、例えば学校の行事とタイアップすることも必要かなと思います。若い人でいえば、キャンプ、リサイクル等の事業も出来そうです。施設の立替に関しては、駐車場の問題もあると思いますが、図書館、体育館などが近くにあれば、文化都市として総合的に鶴岡市が発展し、地方を担っていく役割に近づくのかなと思います。

事務局：ご意見ありがとうございます。

委員：これだけ、多くの講座を実施しているのに、コロナ禍、高齢化で人が集まらないというのは、残念に思います。講座をたくさんしていても、ポスター、チラシをここに来ないと見られないというのではなく、広報にチラシを折込みで入れれば、もっと多くの方が目にするのではないかと思います。

女性センターの記念誌について、全員に行き渡らなかったと聞いていますが、予め希望を募ってから印刷することはできなかったのでしょうか。

事務局：講座の周知につきましては、年に1度広報に折込みをしています。その他は広報に生地を掲載していますが、発行が月1回ということもあり情報量も多く、皆さんの目には止まらないのが悩みどころでもあります。ホームページでは情報を検索しづらいということがあり、LINEで鶴岡市をお友達登録していただくと、中央公民館のお知らせが出るように、現在検討をしております。

女性センターの記念誌については、サークルの予算での発行で、当初輪転機で印刷する予定でしたが、写真も多いため急きょ予算の範囲内で外注印刷し、サークルの人数に応じて配分、配布させていただきました。個別に必要な方については、データがありますので、コピー等の対応はできるかと思います。

5. その他 事務局より残任期間について

6. 開 会